

「巡検会報告」

羅漢山・本谷越付近の火山地質

標記の巡検会が10月26日、熊大・渡辺一徳先生の案内で、21名が参加して行われた。

巡検の主な目的は、阿蘇カルデラ南壁の先阿蘇火山岩類、特に岩脈の観察である。

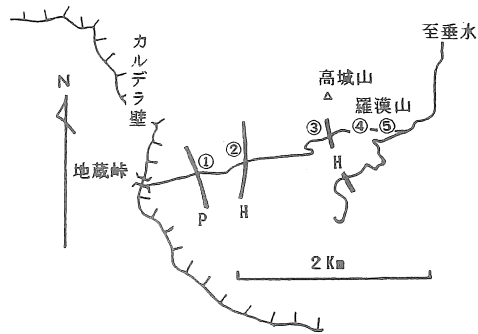
以下、主な観察地点を簡単に紹介する（第1図）。

午前8時30分、熊大を出発し、俵山経由で久木野村へ出て、鮮やかな紅葉を眺めながら高城山南方を①地点まで登った。まず、岩脈の貫入方向と応力場の関係や、絶対年代測定値の説明を受けたあと、輝石安山岩の岩脈（約90万年前）を見学した。貫入時の冷却収縮による、材木を横にして積み重ねたような節理がよく観察できた（第2図）。また、この付近の地形は、侵食速度から考えてAso-4以前からできていた可能性もあると説明を受けた。

②地点では、角閃石安山岩の岩脈（約50万年前）を見学した。残留磁化方位を測定するための定方位サンプルの採集法の説明を受け、岩脈の周縁部と中央部との組織の違いを観察した。岩脈の周縁部では石基が細かくよりガラス質で（急冷周縁相）、中央部では石基が粗くより結晶化している様子がわかった。また①と②の岩脈と、地藏峠南方の2枚の溶岩流とは、それぞれ対応することも考えられ興味もたれた。

③地点では、輝石安山岩溶岩の下位の凝灰角礫岩層を貫いている角閃石安山岩の岩脈を観察した。岩脈の縁の貫入面がうねっている様子がわかった。

④地点では、草千里ヶ浜火山の降下軽石層を見学した。これは燈色の特徴的な軽石層で広く分布しているためよい鍵層になっている。ここで昼食をとり、次に⑤地点で輝石安山岩質凝灰角礫岩層を見学した。この層は遠望すると多数のユニットが成層しているように見えるが、一つのユニット内では級化構造が観

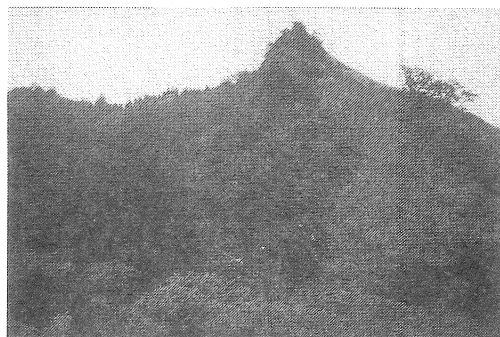


第1図 巡検コース

察されるため、乱流の堆積物が何度も積み重なったものであろう、と説明を受けた。

午後から小雨が降り始めたため、予定を変更して、南郷谷の東部に向かった。まず、白水村長尾野で、阿蘇カルデラの地下構造についての説明を受けたあと、先阿蘇火山岩類の中では最も古い絶対年代（220±20万年前）が得られている玄武岩溶岩を見学・採集した。次に高森町のラクダ山西端の採石場で角閃石安山岩の重複岩脈の見学をして帰路についた。

今回は特に、阿蘇火砕流以前の阿蘇の地史や岩脈の産状について理解が深まり、充実した巡検会でした。案内していただいた渡辺先生に感謝申し上げます、巡検報告とします。



第2図 地藏峠東方の岩脈

（七滝小 麻生弘幸 記）